

河北新報

2018年(平成30年)
11月28日(水)

マグロ漁体験聞き入る

気仙沼・階上小 元漁師ら特別授業



地域の主力産業である水産業について知ってもらおうと、気仙沼市内の水産会社などでつくる「気仙沼

の魚を学校給食に普及させる会」は20日、同市階上小で、マグロ漁に関する特別授業を開いた。子どもたちは元漁師が語る体験談に、熱心に聞き入っていた。

5年生33人が出席。30年近くマグロ漁船などに乗るマグロ漁について説明する伊藤さん(奥右)ら

り、漁労長も務めた同市唐桑町の元漁師伊藤惇さん(78)が世界の海を渡り歩いた経験を語った。

伊藤さんは、はえ縄漁で捕れたマグロが全てシャチに食べられた苦い経験や、三つの水門があり、通過に約8時間かかるパナマ運河の話などを伝えた。

伊藤さんは「忍耐、努力、誠実を座右の銘に頑張ってきた。真面目に努力を続け、耐える強さが必要だ」と漁師生活を通して得た教訓を児童に伝えた。

気仙沼市の漁業会社日福本店の社員によるマグロの資源管理を巡る説明もあった。小野寺一照君(11)は「漁船の機能や漁の方法がよく分かった。勉強になった」と話した。